

目次

日本版への序文	1
序文	5
はしがき	10
第1部 政策	
1 国営科学における革命	
揺籃期の科学と揺籃期の政府	19
行政における科学	21
国防と恐慌	23
国営科学における革命、第二次大戦	25
地についた革命、戦後	28
研究協力、委託契約と助成金	32
2 産業と研究	
企業による研究の生長	37
企業研究の若干の特質	39
企業研究と軍部	42
政府と企業の新しい関係	48

科学研究と軍事上の必要	53
研究開発の予算措置	57
研究開発と経済、特許問題	59
3 大学と政府	
政府と大学研究	62
忠誠・機密保持の要請	64
難かしい間接費の問題	66
設備投資の財政	70
スプーティングと人材養成問題	72
高等教育と政府の政策	80
4 科学政策の形成	
科学と大統領	86
議会と行政機構再編成、科学省の提案	90
政策組織に関する若干の継続せる問題	94
第2部 政治	
5 軍部と科学者	
過去における科学者と戦争	103
両大戦間、「美しき年々」	109
原子科学者と爆弾	112
政府と原子研究	114
爆弾の使用、最初の懸念	119
ドイツ物理学者の奇妙なケース	123
6 決定の政治	
復興と反響	130
議会陳情活動家としての科学者	131
戦略家としての科学者	138
責任の型	147
7 科学における機密	
戦時基準	151
機密と冷戦、議会	153
官僚側の干渉	156
マッカーシーと通信兵団の科学者	158
スパイ活動のケース	159
科学における機密、原因と効果	162
安全と危険	165

8 孤立と責任

オッペンハイマー博士の公判

死の灰と核実験、AECとその批判者

ミサイルと宇宙空間、官僚の政治

P S A C、科学者のための政策発言

結 論

結論 政策と政治

公と私、協力の外交

専門家としての責任、科学者の体験

公共的理解の必要

169

180

190

197

205

208

212

216

訳者あとがき

注

索引

218

232